

STOP THE CORONAVIRUS



滝野川シニアアンサンブル 代表 福原幸子

岡村斉能さんのお声がけにより、平成30年9月に発足して、毎月2回の水曜日練習を続けてきました。令和元年9月に第1回の発表会を開きました。賛助の方々の大きな応援があったので、いささか無理矢理かもしれませんが開催出来ました。今思うと、やってよかったと思います。コロナ感染症がはやりだし、今年は2月から6月まで集まることが困難となり、練習会場も貸し出し不可に。9月からようやく練習会場も弦楽器だけならば貸してもらえることになり、指揮指導の鴨井先生にお願いし、私の好きな映画音楽「タラのテーマ」の楽譜を用意していただきました。聴いていると簡単に思えるこの曲がなかなか難しく、でもやっと雰囲気が出せるようになってきました。以前発表会で演奏した曲も賛助無しでも自分たちのレパートリーとして演奏し続けられると自信にもつながると考えています。ようやく11月からフルートやクラリネットの管楽器も参加できるようになります。演奏する楽しみも、皆が集まれることの喜びもひとしおです。来年には、第2回目の演奏会を開けるように目標をもって励んでまいりたいと思います。

コロナ禍の中、スペシャルコンサート開催 千葉シニアアンサンブル・それいゆ 代表 寺島昭夫

コロナ感染者拡大の第3波襲来かと報道された11月末。美浜文化ホール・メインホールにてスペシャルコンサートを開催しました。コロナ禍中に開催することに際し、どのように準備して来たか簡単にまとめてみました。皆様の参考にできれば幸いです。2回目の東京五輪開催を控え、6月の第6回定期演奏会に向けオリンピックマーチの練習に奮闘していた2020年初頭。それが2月の新型コロナウイルス感染報道により、団員の中からも感染拡大を怖れて練習を休む連絡が出始めたため、2月24日より急遽活動を一時休止する旨告知。利用公共施設とも頻繁に連絡を取りながら、練習再開を望む団員たちの声を聞き日々再開日を模索しました。5月末久しぶりに対面役員会を開き、6月8日管楽器以外の練習を再開。利用施設からの連絡で翌週から全楽器での練習が解禁になりました。6月の定演の延期で、前年から取り組んできた曲の発表機会が見通せなかったため役員会を開き、団員の練習意欲を促す企画を検討。

例年は定演を終えると11月には畑コミのロビーコンサートを開かせていただいていたのですが、Facebookで拝見させていただいている熊谷俊人千葉市長の発信で「こういう厳しい状況だからこそ文化芸術活動を止めるべきではない。活動の機会を促進する施策を提言するべく動く」とあり、早速市の文化振興財団に問い合わせ、結果市議会で可決後詳細がHPに発表されました。それからの役員の動きは速く、会場の予約、プログラムの打ち合わせ、練習計画の作成及び楽譜手配、広報活動、近隣のSEへのスタッフ応援依頼、ファンクラブへのDM等々。役員だけではなく。全団員がマスクを着け手指消毒後、協力して練習会場の除菌、全団員の検温、換気、椅子・机等の設置を手伝い、コンマスの指示で調音を終えた後、全員で先生へ礼をして練習を開始する日々の繰り返しでした。

今回の演奏会は、三密を避けるため事前予約制とし、プログラムもアンケートも人が密集するため作成せず、歌伴・アンコールも中止。長時間会場に留まることを避けるため休憩なしで一気に15曲を60分で演奏することにしました。コロナ感染者の拡大で入場予約者156名の動静が心配でしたが、欠席は42名。当日受付6名を含め120名のお客様をお迎えすることができました。受付では、検温、手指消毒、マスク着用の徹底。客席は定員の半数以下に抑えるため間隔を空けて一つ置きに座っていたくよう貼紙をしました。



プログラムは、クラシック5曲、日本の曲6曲、外国の曲4曲。この中には、笹森敏明先生編曲の4曲（瀬戸の花嫁、ラ・クンパルシータ、エル・チョコロ、アメイジンググレイス）も含まれます。2015年11月17日が先生のご命日。我々の元団員も第二代代表の萩原充行氏が11月6日に天上に召されました。その他結団以来5名の団員が鬼籍に入られ、リハーサル前に全員で「感謝の気持ちを込めて精一杯演奏しよう」と呼びかけました。終演後会場の出口で来場者から「ありがとう。とっても楽しかった」「生演奏を聴くのも久しぶりで癒された」との声。DMの返信欄には「今年は演奏会はないのかと思っていたので待っていました」のコメント。やって良かった、と心から思いました。また、県内のSEからも受付等応援に来ていただき、とても感謝しております。音楽を愛する仲間がこんなに多くいるのだと心強く感じた一日でした。既に来年5月31日の定演に向け動き出しています。